

食があふれる世界へ ～アプリによる 市民へのフードロスの意識改革～

選定理由: 金沢市のみならず、日本、世界にでも問題視していかねばならない問題だから

現状調査

日本の食品ロス
(約621万トン)

事業所から
339万トン
規格外品、返品、
売れ残り、食べ残し

家庭から
282万トン
食べ残し、過剰除去、
賞味期限切れ

国民1人1日あたり
食品ロス量
お茶碗1杯分
(約134グラム)

既存策と問題点

金沢市では

- ・フードドライブ活動
- ・30・10運動を行っている
- しかし、
- ・市民が食品ロスの現状を知らない
- ・市民が活動を知らない

残存問題・真の課題

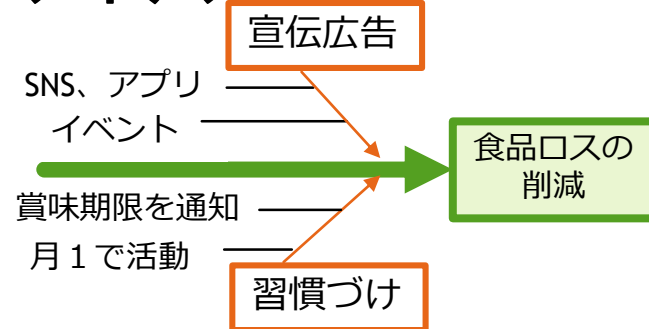
残存問題

- ・費用の制限
- ・衛生管理の責任
- ・市民の意識が低い

真の課題

市民の
意識改革

アイデア



誰でも利用できる機能を付け、食品ロスへの意識を変える



- ・カメラから食品の情報を記録
- ・食品の賞味期限を管理する
- ・データから献立を作成する
- ・料理のレシピを表示する
- ・フードドライブの情報提供
- ・(お店の予約確認)

今後は必要なシステムを考え、機能を分担し作成計画を立てる

2019年度 プロジェクトデザインⅡ
クラス・チーム: EP301-4

メンバー: 須山大輝、谷口恵太
永井裕貴、三井航太、
玉熊研吾、西尾宏斗
担当教員: 西川幸延 先生